



いつも訪問する発電所の構内に、立派な祠（ほくら）があり、黄金の仏様が祭ってある。
とはいっても、顔が前後左右に向かって4つ、腕も8本あり実に奇妙ではあるが、お顔は柔和な仏様である。
その足元のまわりに水や花のお供えと一緒に置かれているのが、これである。
なんと賑々しく、そして楽しくて吹き出したくなるではないか。
また、そこに混じってプラモデルの車があり、支離滅裂状態である。
そこで、知り合いの発電所の人に疑問をぶつつける。
質問も的を射てないのか、答えもチンプンカンプン。
「これはヒンズーの仏様で仏教寺院の仏様ではない」というのが、まず理解できない。
そんなことは、どうでもいいのかように、ここを通る人は立ち止まっては手を合わせる。